

9:1 主はモーセに仰せられた。「パロのところに言って、彼に言え。ヘブル人の神、主はこう仰せられます。『わたしの民を行かせて、彼らをわたしに仕えさせよ。』」

9:2 もしあなたが、行かせることを拒み、なおも彼らをとどめておくなら、

9:3 見よ、主の手は、野にいるあなたの家畜、馬、ろば、らくだ、牛、羊の上に下り、非常に激しい疫病が起こる。

9:4 しかし主は、イスラエルの家畜とエジプトの家畜とを区別する。それでイスラエル人の家畜は一頭も死なない。』」

9:5 また、主は時を定めて、仰せられた。

「あす、主はこの国でこのことを行なう。」

9:6 主は翌日このことをされたので、エジプトの家畜はことごとく死に、イスラエル人の家畜は一頭も死ななかった。

9:7 パロは使いをやった。すると、イスラエル人の家畜は一頭も死んでいなかった。それでも、パロの心は強情で、民を行かせなかった。

9:8 主はモーセとアロンに仰せられた。「あなたがたは、かまどのすすを両手いっぱいに取り、モーセはパロの前で、それを天に向けてまき散らせ。

9:9 それがエジプト全土にわたって、細かいほこりとなると、エジプト全土の人と獣につき、うみの出る腫物となる。」

9:10 それで彼らはかまどのすすを取ってパロの前に立ち、モーセはそれを天に向けてまき散らした。すると、それは人と獣につき、うみの出る腫物となった。

9:11 呪法師たちは、腫物のためにモーセの前

に立つことができなかった。腫物が呪法師たちとすべてのエジプト人にできたからである。

9:12 しかし、主はパロの心をかたくなにされ、彼はふたりの言うことを聞き入れなかった。主がモーセに言われたとおりである。

パロがかたくなになったことで、神様は次に家畜に打撃を与えました。家畜は豊かさの象徴であり、その豊かさはエジプトの偶像礼拝のゆえと思われていましたから、これは豊穡を与えるエジプトの神への打撃ともなりました。

ただしここでイスラエルの家畜には無害でしたので、これが神様の御手によるものであると、パロには分かったはずですが。それでも「強情」であったのは、信じない者の心を表しています。不信仰には根拠はなく、ただ神に対して強情であるのです。私たちは自分自身がそうならないようにしましょう。

かまどのすすは、レンガを焼くかまどのものと考えられます。イスラエルと苦しめたレンガ作りのものが、今度はエジプトを苦しめるのです。ここでも愛する民の苦しみを忘れない、神の愛が明らかにされています。またはこのすすはエジプトの宗教行事に関するものとも考えられます。テホンという神にこのすすが捧げられたのです。

神様は人間が造った偶像がいかにむなしいものかを、明らかにされます。神に頼り、偶像など人間が造ったものを崇める行為から決別しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

